

酒々井町郷土研究会々報

第53号

平成元年7月7日
発行
酒々井町郷土研究会
編集

中川村今昔

青木 朝次

中川は、古来より明治二十二年酒々井町が制定される迄は中川村と呼ばれていた。

桓武天皇を祖として、平家から千葉氏が誕生し、根古谷城を本城として下綱を治めていたが、天正十八年(一五九〇年)、豊臣秀吉、徳川家康の連合軍に対し、遠戚であった北条軍に組み込まれ、北条氏と共に滅亡。其の家臣達は刀槍を捨て、農業に生活の場を求めた。其の家臣団の中の一六家が、酒々井の下宿より中川に生活の拠点を得んと移り住み、中川村が出来た。身分け六家と呼ばれる。青木二家、岡田、木内、伊藤、石渡の六家である。当時は、村の中央を川が流れていたが、中川村と名付けたと言われるが、何時ごろから上

岩橋村との境を川にしたかは不明である。いま上岩橋区内の川に接した所に小字中川の地名が残されている。

其の六家が次第に増え、徳川中期以降頃には三十数家になったが、持高十石以下の百姓は分家が許されなかったため三十数家のみで明治維新迄続いた。他よりの入居者のほとんど無かったのは、中川が毎年のように襲い来る日光水の被害に苦しんでいたからと思われるが、百姓達の三分の一位の人達は、何んらかの副業で生計を支えていた。船大工、土摺臼、桶屋、回船業、紺屋、質屋等々の外、芝山仁王尊信仰が下火になって成田不動尊詣りが盛んになると、此の参詣客相手の茶店等営む者も多かった。鱧の蒲焼や鮒の雀焼等は、江戸迄知れ渡る名物になり、客

が食べながら歩いた雀焼の竹串が、下り松辺り迄数多く続いたという。

中川の清水は清く、昼夜の別無く湧き出て、夏冷たく冬暖かく、旅行く人に親しまれていた。『成田参詣記』には「中川の村此の地毎家井戸水噴出清冽愛すべし」と書かれている。事実、立場茶屋を経営していた私の祖母も、客が冷たい水を賞て飲む



中川台より印橋沼を望むの図『成田参詣記』より

姿を思い出し、よく語ってくれたものである。然し、明治三十年、汽車が開通すると徒歩の参詣客が無くなり、これらの店は次第に消滅した。中川は、進取の精神に富む者が多く、明治六年に酒々井では一番早く中川小学校(墨小も同

時)が開校され、其の後、動力式消防ポンプ、青年館の設置も酒々井町一号であった。電車、汽車の駅設置に反対する気風が多かった中でいち早く京成酒々井駅を用地無償提供で誘致している。そして印橋沼対岸との遊業渡船事業も村営で開始し、印橋沼干拓迄続いた。農業も毎年梅雨干拓迄続いた。農業者も毎年水魔に苦しめられながら水神宮を祀り、豊作を祈願し、村の中央に薬師堂を建てて心の拠り所とし、毎年八月七日の夜の大護摩修行奉納演習等現在迄連綿として続けられている。

此の農民の水害解消の悲願は、大正十一年に安食開門の完成で達成されたが、昭和十三年と十六年の二回、例外的に大被害を受けている。

都市化の波は容赦なく押し寄せ、京成駅からJR駅迄の水田は埋立てられ、中央台一丁目が出来、国道五十一号線も、バスの更にバスが出来た。農家の農屋根も近代的な文化住宅に変り、水害になやまされ続けた貧農も、自家用車を乗り廻している。永年三十九戸だった家数も、百五十戸に増加し、今、京成駅前広場が出来ようとして、最近の変りようは激しく、今、蒲島の感がある。

「酒々井町植物目録」に
ハナニラを加えたい

木本 氏幹

この三月、飯積の字台上で、家からはかなり離れた斜面の雑草のなかにハナニラの株があり、白い花を咲かせているのを見ました。そこはアズマネザサも入りかけた荒地で、人がハナニラを植えたとは思えないような場所でした。

ハナニラは南米原産 明治の中頃、日本に入って来た園芸植物で、酒々井町でもお庭に作っている方もあるでしょう。これが栽培されているうちは千ユーリップやパンジーなどと同様園芸植物で、植物目録には加えませんが、何かの折に抜け出して、野山に自生していることを認めるときは、逸出植物として目録に加えられるべきです。

『千葉県植物誌』(一九七五)には帰化植物三一五種が発表され、これが県全体の植物に対する割合は一六%です。この割合を帰化率といい、土地開発の程度を

知る目安となります。

いま、ここに挙げられた帰化植物から酒々井町にあるものを拾ってみると六四種、ハナニラを加えて六五種となり、酒々井町の帰化率は九%です。つまり酒々井町は県全体から見ても、帰化植物の侵入がまだ少なく、自然度の豊かな地区と誇ることができそうです。

しかし、今後開発が進むにつ



ハナニラ

れ、いつ、どこで、どんな帰化植物が現われるかは関心のあるところで、皆さん一緒に見守っていたらいいと思います。

ハナニラはユリ科の多年草。葉は卵形で長さ5cmほかり、葉は縁形で平たく、幅5mm、粉緑色をおび、直立せず地面に平たくのびる。3-4月に葉の間から高さ15cm内外の花茎をのぼし、頂に白地にやや青紫色をおびた花を1-2輪つけ、花が上向きに咲く。上唇は1対の苞葉がある。花被は下唇が短く筒となり、裂片6個は楕円形、中裂が著しい。花筒の内側には6個の雄ずいがあり、2段に並び、花

柱の頂は深く三裂する。アルセンチンの原産で花を観賞する。

(寺崎君『日本植物図譜』より)

水本氏幹氏のプロフィール

佐倉市に在住、明治生れの七十九才、背丈抜群、眼鏡の奥の目は、野草を愛する人の優しさを感じてゐる。
佐倉野草会の会長で活躍中、酒々井町史「通史編別冊」酒々井町植物目録に佐倉野草会の方々と、二年間にわたり植物調査を執筆された。
郷土研会員で、史談会、名勝探訪に参加されている。

町内史跡めぐり報告

六月十八日、曇り空ながら前日までの雨も上って、郷土研主催の町内史跡めぐりが行われました。会員外の顔ぶれも見えて総勢二十七名。木本先生や亀井さんに道辺の草花の名や特徴を教わりながらワイワイガヤガヤ賑やかに行きました。

いつもは扉の内深く坐します長福寺、松雲寺、浄泉寺の仏様にも今日は拝見ができませんでした。いずれも平安・鎌倉時代のものとのことで、わが町に七百余十年前の仏様が何体も残っていることに驚くとともに、今まで大切に守られてきた檀家の方々に感謝の気持ちが一杯です。
ポツポツ落ちはじめた雨の中、

郷土研日誌 (概 48~6月)		
日	内 容	参加人数
4/8	古今佐倉真佐子を読む会	21
4/19	県外 足利太田面見学会	87
4/23	文化財愛護 <small>カンカンムロ、上野橋貝屋、伊藤松並木、植松、植松</small>	38
4/27	山菜を食べる会	57
5/10	名勝探訪・佐倉道を歩く(No.13)	20
5/13	古今佐倉真佐子を読む会	20
5/21	会報編集会議	7
4/7	名勝探訪・佐倉道を歩く(No.14)	20
6/10	古今佐倉真佐子を読む会	12
6/3	見学委員会	9
6/18	町内史跡めぐりハイキング	27

お知らせ

郷土研の活躍再度
千葉テレビ放映

『生きがいの創造』

日時
9月18日(月)
21時20分~21時40分
9月24日(日)
10時20分~10時40分

再び放映されます。是非ご覧になってください。

午後からは下岩橋城跡を見学しました。地元の方が草刈りをして下さった急坂を登ると、城跡は外堀り、土塁がめぐり、ほぼ完全に郭の形を止めています。本館、城とともに、酒々井町の中世の歴史を語るこの城跡が、これから先の人々にも伝えられるよう、地元の方々を中心に、町民全体が協力していかねばとの思い新たに

旅ごころと私

山口洪子

くるぞ、くるぞと思つていろいろとにシューとえらい音と共に蒸気が中央

高く吹き上る。諏訪湖の間歌衆をみる春の旅。雪景色に浮かぶ高島城、いつく

城内で観た雛人形。山あいの心やさしい稚児のほゝのよりに、うす桃色に陽

にかがやく高遠の梅花に心はしゃぐ気分。流れる汗を緑の風がやさしくぬぐいながら

通り過ぎるいく高麗人参畑の寒冷紗の黒い日陰で、土の匂いにつつまれて

虫の音を遠くにただポツとーている。いいな。刈入れの後の野良仕事にせいです農夫。コスモスの花をか

がして畦道をかけていく子供達。山々はパレットのように、にぎにぎしく色づき、そこまできている冬の気配に、今ぞとばかりに輝き、一筋の冷たい風に舞

分、エキゾチックな感情にひたるという。そのような気持になることもあるだろうが、私はいとも単純である。毎日の生活

環境の外に出ることがすでに旅である。いつもと変わった空、風、等々にふれてみる。それが一番の目的であり、それに山、

川、人物、味覚がプラスアルファされる。出かける時は、欲ばらずと自分に言い聞かせて行くと思わぬ大穴に当たる

こともある。そんなときは、やつたねととリンレン気分。心はもうつぎのプランの準備中。

国内も海外も、旅そのもののルールは変わらないが、システムはかなり異なると思う。私の旅に不可欠なものは

温泉、地酒、それに美味なる肴があればよし。後は時のゆるすがきり足の向くまま、これのみである。

海外は厳しくいえば命がけて行く(おなげさか)は。一冊のパスポートにかかる煩わしい手続き、ガマンの機



みよのよに仲間にお伴いします。林間にお静かに。みよのよに仲間にお伴いします。

見学記

足利のまち

安達英彦

平成元年四月十九日、郷土研究会の皆様八十余名の方々と一緒に足利の里に向かいました。そのメインは足利学

校であります。足利市は関東平野の北端に位置し、日光連山に

に広がる足尾山塊を北に控え、市内を渡良瀬川が流れ、中小の

河川も渡良瀬川に注いでいる「水と緑」の都市である。この地は

古い時代から河川等が形成した肥沃な土地であったので早くから開墾

市内には、多くの古墳や先人達の残した貴重な文化遺産が数多く存在しています。

歴史のまち「足利市が全国的に誇れるもの」の一つは「日本最古の学校」。「日本最古の総合大学」と言われる足利学校であります。

の時代に開学し、振興したと言われております。また前出の方々がそれぞれ時代に創建したと言いう説もありません。

学校は関東管領に就任した上杉憲実が永享十一年(一四三九年)に修理、学校領と共に諸国から求めた書籍を寄進

し、鎌倉五山のつづみ庵の僧、快元を招いて初代の校長とし、長い間守られていた

校の道を復興して盛んに学生を養成した。その後は代々僧侶をもって校長とした。上杉

憲実の子、憲心、子孫の憲房も書籍をおさめて学校の基盤を充実し強固なものとしたのであります。室町時代には儒

学、特に易学について学んだ僧が多く、天文年間(一五三三〜一五五四年)第七代校長の九華に至つては学問はますます盛んになり、学生三千人を収め、

およそ三十年間にわたる在任中大いに発展したと伝えられて居ります。以上が今回の足利方面の見学記の

一端であります。私の中学時代の歴史の恩師故高井貞福先生(八十四才)に教育された足利学校の追憶は種々あります。その一端をもう書こうと出来ないので残念であります。



郷土研行事業内

7月~9月

	7月	8月	9月
史談会	15日(土)午後1時30分 古今佐倉真佐子を読む会 (中央公民館)	休	9日(土)午後1時00分 古今佐倉真佐子を読む会 (中央公民館) 現地学習
名勝探訪 野草の会	5日(水)午前8時20分(京成酒々井駅) 佐倉道を歩く(No.15) 京成酒々井駅(8:20)-谷津干潟-幕張 昆陽神社-馬加康胤首塚-幕張- 千葉神社-酒々井帰着(15:00頃) (雨天中止)	休	6日(水)午前8時45分(JR酒々井駅) 佐倉道を歩く(No.16) JR酒々井駅上りホ-4(8:45発)-都賀 -モレール-県立スポーツセンター-下草-大日 寺-来迎寺-護国神社-忠霊塔- 千葉公園-酒々井帰着(15:00頃) (雨天中止)
県内 見学会	7月18日(火)A班 定員35名 21日(金)B班 出発時間 中央公民館 8時30分 申込受付 7月6日(木)公民館にて10時 会費 2,000円(弁当お茶つき) キャンセル 実施日5日前まで 連絡先 会田秀雄宅	千葉市内・コース 中央公民館(8:30出発)-千葉県立中央博物館-千葉市 都市緑化植物園(昼食)-千葉寺-加曾利貝塚 -酒々井帰着(16:30) 雨天実施	
郷土史講座	8月20日(日)午後1時30分 場所 中央公民館 視聴覚室 (教育委員会共催)	講師 高橋三千男先生 演題 「本佐倉城と居館群」	
文化財愛護	7月15日(土)午前8時 現地集合 (お近くの現地に草刈用具を持って集合して下さい) 《伊藤松並木、上岩橋貝層、カンカム口横穴群 草刈り清掃》 (雨天中止) 代替日 7月23日(日)に実施 ◎ご参加をお待ちしております。		

見学会案内

県内見学会

7/18(火) 7/21(金)

今回は千葉市青葉町に本年オー
プンした県立中央博物館を中心として
市内を見学します。

◎ 県立中央博物館

広大な敷地の中に開館された規模
の大きな博物館です。「層総の自然
と人間」を全体テーマとして展
示されており、郷土の姿をいろ
いろの角度から勉強できます。

◎ 緑化植物園

三里塚の花植木センターと同趣意
の植物園ですが、見るだけでも楽し
い植物園です。

◎ 千葉寺

阪東第二丸橋礼所で、千葉氏の氏
寺として栄え、徳川時代には御朱
印百石を与えられた古刹であり
ます。

◎ 加曾利貝塚

国指定の史跡で、わが国最大の貝
塚であり、博物館には縄文時代の
石器土器が展示されています。
(相京記)

名勝探訪

佐倉道を歩く 7/15(水) 7/16(木)

七月五日(水)

その後の谷津遊園跡の変貌が、
谷津バラ園などを見ながら谷津
干潟に至り野鳥を観察します。
谷津から幕張に至り昆陽神社、甘
諸試作碑を見学し、一七代千葉
介となった馬加康胤の首塚を訪れ往

九月六日(水)

時を偲び、引返して幕張から千葉に
至り、千葉氏の守護神であった妙
見さま(千葉神社)に参拝します。
JR酒々井駅より都賀駅に至り
モレールに乗ってスポーツセンター
駅下車、バスで千葉氏歴代の墓石、
五輪塔のある大日寺と来迎寺を訪れ
ます。さらに徒歩で千葉護国神社
忠霊塔を参拝して千葉公園に至り
一巡して千葉駅から帰途につきます。
(相京記)

会計報告

野草絵る会(4/4)	
収入	31,500円 (500x57名 200名)
支出	34,281円
≒-2,781円(不足)	
郷土研より補充する。	
足利・太田方面見学会(4/19) 参加者87名	
収入	391,500円 (87x4,500)
支出	405,436円
内訳	バス代 206,000
	タクシー 16,010
	有明橋路 28,200
	食事代 104,400
	入館料 47,820
	雑費 2,986
差引	-13,936円(不足)
郷土研より補充する。	

編集後記

平成に代わってはや半年過ぎ
てまいりました。町の百周年記念の
イベントも、次々と消化されておしま
いますが、先日の足利方面の見学会は、
お天気にも恵まれて多くの方々の賛
同を得て、楽しく実行出来たとでも
嬉しく思っております。これから
もよい企画をと張り切っております
が、ご希望がありましたらお知らせ
下さい。
新しい季節の訪れも間もない、
とですが、見学会、講演会など次
の行事も盛りだくさんです。お誘い合わせ
の上で参加下さるようお願いしま
す。暑さに向かいます折
健康に気を付けましょう。